



たまねぎのべと病対策について

べと病の症状

べと病の対策

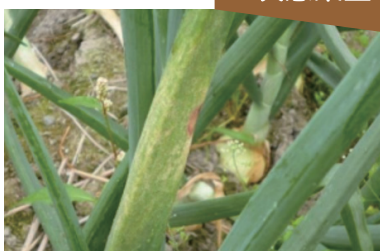
一次感染型



作物の残渣などから10～12月に苗床や定植後の圃場で感染し、翌年の2～3月に症状が現れる。

症状 葉が湾曲し、黄色く色褪せる。

二次感染型



一次感染株が伝染源となり、3～5月に好適な気温と降水量が多い等の条件が整うと急速にまん延する。

症状 葉に淡黄緑色で楕円形の病徴が現れ、カビが生じることもある。

以下の条件では特に多発に注意！

気温
15℃前後

曇雨天が続く

農薬の例

農薬名	効果	系統(FRAC)	希釈倍数	使用時期	使用回数
ジマンダイセン水和剤	予防	ジチオカーバメート類(M3)	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内
ダコニール1000		クロロニトル類(M5)	1000倍	収穫7日前まで	6回以内
プロボース顆粒水和剤	予防/治療	CAA殺菌剤(40)			3回以内
ランマンフロアブル		Qil殺菌剤(21)	2000倍	収穫前日まで	4回以内
アミスター20フロアブル		アゾキシストロピン(11)			

※ダコニール1000・プロボース顆粒水和剤に含まれる成分TPNの総使用回数は、6回以内。

農薬散布時は展着剤の使用がおすすめです！！

対策1

定植前の苗床や定植直後に予防散布を行うと効果的。(連作が回避できない圃場等では特に重要！)

対策2

以前べと病が発生した圃場では、予防的に農薬散布をしましょう。

対策3

圃場で異常な株を見つけたら抜き取りましょう。



写真：岡山県 令和5年度病害虫発生予察情報 第8号ジャンボタニシより引用



写真：農林水産省HP 防除対策リーフレット(【秋冬編】ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために)より引用

ジャンボタニシ対策の効果

ジャンボタニシは気温14度以下になると土中の浅いところ(5cm未満)で越冬します。

土壌が乾燥して固い冬季に耕し、土中で越冬しようとしている貝を砕いたり、寒気に当てることで、殺貝効果が期待できます。

冬季の水田耕耘について

冬季に水田を耕耘することで、ジャンボタニシや多年草雑草を減らす効果が期待できます。

多年草雑草を減らす効果

防除方法の一つとして、耕耘をすることで、地下にある多年草雑草の茎や根を切断できます。また、多年草雑草の塊茎は低温や乾燥に弱いため、塊茎を掘り出して寒さにあてると発芽を減らすことにつながります。

多年草雑草の例



ウリカワ



クログワイ



オモダカ



多年草雑草の塊茎

